

バイオセラピー学 特別研究総合演習（一）（2単位）

担当者氏名 小川 博・浅野房世・山口裕文・宮本 太・安藤元一・佐々木 剛・土田あさみ・
増田宏司・川嶋舟・三井裕樹

◆学習・教育目標

各専修指導教授および授業担当教員の指導の下でバイオセラピー学専攻の理念構築を進めるための研究がどのようなものであるかを学ぶ。また高度な専門的研究者や職業人の育成をめざし、自立して研究活動ができる研究者および職業人となるための専門性を強化する。具体的には研究テーマの設定、研究計画の立案について討論を重ねる。また各学生のこれまでの研究（学部卒業論文および修士論文）などの研究経緯とその結果を再評価し、これまでの研究の問題点、修正点を明らかにする。これらの討議を進める過程で、研究の意義ならびに目的、新規性、独自性ととも、バイオセラピー学に対して社会が求める問題解決への理論を学ぶことを目的とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

植物共生学 野性動物学 人間植物関係学 伴侶動物学
植物介在療法学 動物介在療法学

◆授業の進行等について

テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
人間動物関係学専修：	人間と動物との関わりを、遺伝子、生理、生態、行動、環境レベルまで広く展開し、野生動物や伴侶動物の保全・保護から活用についての高度な研究能力を養うことを目標とする。	各専修の担当教員とあらかじめ実施内容および準備を打ち合わせておくこと。
人間植物関係学専修：	植物と人間の関わりについて、環境レベルから生活レベルにわたり様々な視野から展開し、植物の保全・保護及び自然環境の活用、植物による人々の生活に潤いを与える環境の活用についての高度な研究能力を養うことを目標とする。	
生物介在療法学専修：	障害者、高齢者、心理的な困難にある人々に対し、動物並びに植物を介在した療法に関わるメカニズムから手法・効果について展開し、人の心がどのような療法により改善されるか、またその活用についての高度な研究能力を養うことを目標とする。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料） 書名／著者／発行所（発行年）

各教員よりその都度指示する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

各教員よりその都度指示する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

各教員によるレポートおよび質疑応答により評価

◆その他受講上の注意事項

本演習は所属する研究室ごとに実施する。

各自の指導教授および担当教員との綿密な打ち合わせを常に行なうこと。

演習の実施内容については記録を残すこと。